



## 人と自然が調和する矢部村の教育

校長 山口 浩史

昭和 35 年に完成した日向神ダムの道路沿いに千本の桜が植樹され、それから 59 年を数えた平成 31 年 4 月 1 日(月)に満開の桜並木の中を車で通り抜けながら、校長として八女市立矢部中学校に赴任しました。

本年度の全校生徒数は 18 名と少ないものの、本校の全ての子どもたちが誰に対しても優しい言葉かけや接し方が身につけており、教師や地域の人たちと会話する姿にも素直で純朴な一面がにじみ出ています。4 月 6 日(土)に矢部村で開催された「第 35 回八女・桜まつり健康マラソン大会」でも多くの生徒が競技に参加するとともに、地域の方々と共にボランティアとして受付業務や飲み物の提供を笑顔で行っていました。このように、矢部中学校の子どもたちは、地域の皆様方に宝物として大切にされています。

また、矢部中学校では、生徒数が少ないことを強みに、学力向上に取り組んでいます。その一つが教科型教室の活用です。子どもたちは、理科室や音楽室だけでなく国語も数学も社会も、全ての教科で移動教室を行います。全ての教室に電子黒板が準備され、ICT が整備されています。そして、5 人～8 人の少人数での授業であるため一人一人の子どもが主体的に学習しています。少人数ですが、一人一人の発言はとて多く、様々な意見交流ができる対話的な授業が進められています。つまり、主体的で対話的な深い学びの授業が全ての教科で毎日行われているのです。必然的に子どもたちの学力は向上していきます。

しかし、学力だけを向上させているのではありません。昼休みには、グラウンドや木籠（体育館）で学年や男女関係なく元気にボール遊びを楽しむ姿や学習室で生徒会役員や「ふれあい運動会」リーダーの真剣な話し合いの姿が見られます。このように、子どもたちによる自治的な活動も推進しています。

矢部村には、地域の伝統芸能として福岡県指定民族無形文化財の八女津姫神社の浮立がありますが、現在は正式な浮立の奉納は五年に一度になっています。そこで、矢部中学校では、伝統芸能存続のために地域の保存会と共に浮立の伝承・保存の活動を行い、毎年小学生と一緒に矢部まつりで浮立を公開しています。

このほかにも「柚のふるさと文化館」の清掃活動や老人福祉施設である「ゆいのもり」を訪問しての福祉体験など地域と共にある活動を大切にしています。

人と自然が調和する矢部村では学校地域家庭をつなぐ『総掛かりの教育』が推進されており、令和 2 年度には矢部小学校と矢部中学校が統合し、義務教育学校に生まれ変わります。小中学生、教員、地域が協力して準備を進めています。